市民談話室

投稿ください。市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽にお寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根二二三五　白根市役所企画財政課広報広聴係です。

緑花運動に思う

四季折々に誰もが心なごむよう

武田吉次郎さん（五六の町・無職・60歳）

全国的に緑化運動が盛んになりました。白根市でも緑をもっと大切にしてください。

児童遊園、保育園、街路樹など植えっぱなしにしないで、手入れを怠らないよう願います。街路樹は残り少なくなりましたが、それでも春の芽吹、夏の緑葉、秋の黄葉など、まだ姿を変えて楽しませてくれます。

しかし、街路樹などは、ほとんど地先の人たちに迷惑をかけています。日さしを悪くし、落ち葉を始末しなければならず、私たちが通りがかりに見ても、地先は迷惑だろうなあ、と感じられます。

市で枝打ちや整枝をやってくれたら、地先の人も見る人も心なごむだろうと思い、筆をとりたくなりました。

全国緑化運動に協力し、樹木を大切に育てましょう。かけ声だけでは何事もよくなりません。

本町通りの街路樹

国会議員に一言

庶民の暮らしにも目を向けて

長沢一衛さん（戸石新田・農業・76歳）

国会議員のかたがたは国民の代表者であり、りっぱな人格者であって、国民から国政の審議を負託された先生がたと、私は信じています。私はこの国会議員のかたがたに、次の点を強く要望したいと思います。

一、政府は代議士に対し、報酬の値上げを実行しましたが、その前に交通費の実費支給をやめるべきではないでしょうか。

国鉄は毎年、多くの赤字を出し、また、日常生活にも容易でない国民が、料金を支払って乗車していることをご承知と思います。速やかに法を改正し、代議士先生は乗車料金を支払って誇りを持って常にグリーン車に乗車していただきたいと考えます。

一、国会での政府の施政方針演説に対する一部の代議士の下品なヤジには、あきれかえっています。多数の議員も、ヤジのため聞き取ることができずに迷惑していると思います。強く猛反省を要望します。

一、代表質問で、各野党の質問内容が重複し、誰が出ても変わりばえのしない質問が続けられています。また、これに対する総理も、同じ答弁の繰り返しです。質問者は事前に十分、質問内容を打ち合わせ、時間の空費を避けるよう要望します。

一、国会を一日延長すれば、約一億円が費やされると聞いています。国民を代表する代議士の誇りを認識して会期の短縮を考え、無駄な会期延長は絶対に避けて国費を浪費しないよう強く要望します。

生活に困り、自殺する人が毎日何人あるか、庶民の苦脳をご理解ください。

少ないレジャー施設

魅力ある施設で活気あふれる白根に

赤塚昌一さん（三の町・学生・21歳）

白根市には、レジャー施設が極めて少ないと思う。その中でも特に公園施設、スポーツ施設が挙げられるであろう。

公園については、二～三の場所ぐらいは知っているが、果たして公園とは言いにくく、公園としての魅力も少ないといっていいだろう。もっと大きく、誰でも気軽に行けて、余暇を本当に楽しめるものであってほしい。

「緑」をキャッチフレーズとする白根なら、それをもっと引き立てる公園であるのもよいだろうし、信濃川、中ノ口川という二つの大きな川を利用した公園なんかもよいと思う。

スポーツ施設にしても、テニスコート、市営プール、トレーニングセンターなどをもっと造ってほしいし、そうあらねばならないと思います。

その他のレジャー施設も同様で、そうすればもっと活気に満ちた白根、ここにいても飽きないという街に変わるのでは？　そして、よそから気楽に訪れることができる所となるでしょう。

不安な川水

河川の水質を今考えなければ

武田寛治さん（蔵主・会社員・57歳）

最近、川にいろいろな廃液や汚物などを流す傾向が見受けられます。

私が川の水質について危機感を持ち始めたのは、阿賀野川の上流に起きた、あの痛ましい水俣病発生事故です。早いものであれから二十数年にもなろうとしています。

「人のうわさも七十五日」とか言われていますが、あれほど世間を騒がせた事件も、最近だんだんと人々の心から消え去ろうとしています。過去の経験ほど貴重なものはありません。一度失敗したことを二度と繰り返さないようにしなければ事故は忘れ去られても教訓は残さなければなりません。

将来の川水はいったいどうなるのかと思うとき、お互いが今一度真剣に考える時期ではないでしょうか。現在の川水の中に、目に見えない廃液や、いろいろな物質が流されているのは、火を見るより明らかです。

このような状態が長年続くなら将来の川水の水質変化により、浄水場でよい飲料水が出来なくなるのではないでしょうか。私事ながら、先行き不安を感じています。

市民文芸

俳句

残雪の村々廻る消防車　坪川桐太郎
雪消えて希望に躍る土のはだ　牛腸　七郎
転勤の荷がゆれてゆく春の風　田中　昭一
口紅の赤き少女や春あさし　石田　豊実
春めくや堰落つ水の響きより　中山　義英
雪消して時代苗代ハウス張る　佐藤勇一郎
融雪道さび垢のこり春めける　須戸　義夫
吾が庭にこぼれるやうにこぶし咲き　大旗　豊治
桜餅仏に供えて供養する　玉木　長吉
鴛の庭に来りて緑談　小林キミイ
右に左にかゝえし花の八分咲き　渡辺　勤

川柳

紋章の菊で旅するパスポート　佐藤トミノ
嫁ぐ娘に覚えきれないアドバイス　竹石　甚五
見せかけの愛で男を釣る女　織田　セツ
不作法が婚家の紋に馴染めない　田村　恒夫
出しぬけに仇名で呼ぶ人知らぬ人　今井　タエ
仲人が祝辞に入れるアドバイス　後藤まさの
びっくり箱の中で孵化する無精卵　長井　徳市
嫁とって親子の仲に出る波紋　米野　光雄
魔性の血騒ぐ孤閨の隙間風　中村　尚治
飛び出した不渡り顔から血の気引く　高橋祐四雄
アドバイス受けてはかどる今日の首尾　山岡　フミ
午前二時びっくり箱にもある寝息　吉川　彰
鯉口に問うサムライの善と悪　吉川　末吉
移り気な女ハートの位置を替え　今井　七郎
我が家紋ルーツ辿ればただの人　岡村　清
サムライのつぶしがきかぬ粗大ゴミ　西条　ムラ

短歌

日は西に月は東におぼろなり　桜前線未だに訪はず　中村　京